



俳諧教勺帳題目録

秋部

初秋

七夕

一系

秋柳

秋堂

秋扇

躍

相撲

露

露

萩

秋草

萩

萩

木槿

女郎花

荊薑

桔梗

菊

蕩

葛

秋田

福壽

虫



紅糸綯	楓	木實	鳥	麻
葦	父系	芭蕉	鴨	鶉
九月盡	紅糸	月	淡館	小鷹
雜秋	名木紅糸	菊	礎	父鳥

誦讀教句帳卷之下

秋

初秋

涼さの口や秋の風袋 良其
 うき雲や輝の風乃力筋 親市
 山乃系ハ穉乃風吹矢外 曰
 よろしき子足も立やと朝秋 貞徳
 鼻あすも辛やと夕乃音 曰



あすくハ生ノ乃息ク燐ノ風日
乃祿ノ成集れ口やあす乃定 市次
あすくハ似せ山伏ク積れク後 幸次
す乃やと朝立秋ノ露もよひ 光亨
難積乃口も燐立あすたふ 宗富
あひくまのおさるそくちく朝の
秋

七夕

七夕乃琴や雲井てと巧眞
早に抽妙と七月乃志らやる 貞徳
七夕れふううとあねや宵月日
織女ハ子母りになすやゆく布日
七夕乃ぬおとこまねやあつ日
七夕ハあまのまへに集れ契り日
まあくくうと七夕乃織外 長吉

敷のこゝ孫彦早乃ひうりか
牽牛花らまうり付るやうに時
多新

此のまゝ

七夕のよすや神師一乃うらぶりて
親重

七夕れまのひーて我やかり枕日

かしら乃きよまのけ七夕れせんとう
幸和

稲妻や七夕れをうあや乃とん
宗富

七夕ををんくくそ月れ嵐るま
宗彦

七夕はらひ又月乃うーめか
宗朋

七夕のまきくくひ向よ屏風等
常之

月乃舟七夕のよかせあは川
一村

七夕れりりおにじや月乃舟日

七夕やのけ掲わくは虹れえ日

一葉

一葉の舟れ帆をれや萩乃風
貞徳

一葉ふくやあけよのるりあまの風日

追善なり

相乃葉ふくやあけよのるりあまの風日
あまの天下一葉ふくの煙のけいあまの幸和
一葉ふくの舟乃帆纒り糸柳 正徳
一葉ふくやあけよのるりあまの風日 幸和

秋柳

秋の秋柳は氣力落葉ふくやあまの風日
秋風て繁きりいほと柳水氏幸
煉れ月よ柳乃くきやあけよのるりあまの風日
金色よまきくむ柳や親世音 正徳
らまきくむ柳乃くきやあけよのるりあまの風日 宗富

秋堂

人むくくあけよのるりあまの風日 徳元

堂火や吹もは煉の風乃は氏を

煉扇

秋まきくは持しも左扇は

々朝や煉露と扇は遠くは家久

煉風乃はそはあまきの別は一心

報秋首吉する人乃とあて

ふつしは習てとと扇は親遠

あしぬら扇も海やとつし幸和

躍

夕より皆あさなや木當はわ

百とせ乃娘おも小町はわ介貞徳

あつし小町はわや修務踊日

約とよ月毛乃あまの木當踊親意

ふも足もくは題目は躍か日

歌鼓うらしてせむやゆんれふ
躍ひやじしそらて歌や少り鼓 幸和
太鼓のくくもやとふ念御踊か 宗富
邦とるあまのこきりこ蛇鶴 日

相撲

為前園白川りて
白川乃流日くみんもまふ心 市松

露

七宝乃むやまくゆれ花乃露

追善り

袖よりやかりろりと露の玉多る 利清
珠敷玉の佛地魚乃多れ露 吉久

追善り

云人乃通志身名や袖れ露 長吉

見ゆけとも本城のつら露の玉 玄札
若乃露の露はまに乃眼玉 心直
葉よ通いど乃油の露の露 幸和
月影て水も乃玉りおの露 永直
如意痛く親音草乃露は玉 親音
風はれ草の玉ちれや草の露 照早
あけまのうさ行とて
待もと朝露もさすう鞠子が一村

霧

立ゆくと霧や一天の海浪
伊勢作治乃くやまひ
とくしりけり時
雲をよむおとららの日やお世な 貞徳
中もよま立いと地乃志きわか 宗秀
いりたかりの毎よあけよ霧は海 宗秀
は果や結えとるに霧乃海 親音

追々

くまもや芳に潤はくせん

芳乃海は世界乃ものいん急か 幸和

そゆや〜芳ゆ〜

芳は平むすやんせぬさの山 日

那や山乃差別よらるるの海 良昌

洪あり那山よんせぬ芳乃海 宗盛

萩

秋風乃定宿るれや萩れ都 貞徳

萩と和や羊子乃の中れ中風也 日

伊勢み〜

て酒萩と伊勢あ〜そひら松れ都 市邦

煉成ぬと葉回すらや萩乃都 日

醫者者あ〜て風やおきま萩れ都 宗富

虫乃香と竹を福後そ萩れ都 正幸

秋もまろくもやう程そ萩はあう

秋草

紅き草より萩やほあうかき綿

とよむや風もぞいし寺は庭

ほえ出さく人もくもや大子草

秋乃萩はあうもいふとまよふ

赤きれと穂よはあうもいふ

那へ乃秋もまろくもやう程そ萩はあう

大萩今れかえあうもよも摘み

うかたれく萩もよもいふも魁薊 徳元

水うのうまうめく露乃あうもよも 貞徳

あうもよもあうのうまうめく露乃あうもよも

萩の野よあうもよもあうのうまうめく

あうもよもあうのうまうめく露乃あうもよも

花乃白ひまろくとあうもよもあうのうまうめく

秋風よそとくまするや鶴乃花
燐の野や風よかここれ乃花軍
小車のくさひもや少と仙翁花
ひしよは暖や子種れむしり
又付や花よわくろとらり季
宗苗

通文

まふみし野よ花くむしり
花乃笑もむしりやふもむしり
政倫
宗苗

ゆりり花よ出せよ庭乃風車
山麓もきこく刀よ小車乃花盛
螳螂のわく小車一乃長枝うか
舟よ花ちる小車ハハの福舟一村
舟ままよ花もあわたりを甲日

秋

昔乃花く小菘そくつる花くか

まゝあはらうーんそ蘇子にく霜露

露ふて踏すの蘇子の花野小 徳元

ひらひら乃まきやん乃紋蘇花 貞徳

ふれそ子もけれ蘇乃花 心章

馬麻老や打釣行るま麻鳴子 幸和

露乃ようまごころ蘇小 利法

蘇の花よふらきん月夜 頼高

蘇も花乃露やん一野 曰

蘇よ風やあまのむすの 親重

とつくとつ蘇や露よ蘇乃系 曰

大風よ小蘇也こけら錦 幸和

すのぞよ風カそ小蘇うか 親重

はらぬまやみるまぬまの花園 宗富

ひらひらよまなむそあんのやん 曰

ぬいあうりすの蘇乃そ子あか 忠海

すの蘇や鞠乃かりれ露とん 宗富

あはれなるものぞいかに心細くも思ふ

朝顔

夕露の朝顔をわらふは水うき

小車に咲く朝顔や牽牛花 貞徳

朝顔乃白きも露乃落けきやう 吉久

白露や実朝顔の花のあせ 正尹

あはれもの早よ咲き牽牛花 以事

朝顔よ出く水邊や露乃玉 方頼

朝顔のけしきのあはれきま 長運

朝顔よ志はよ花乃日かけ 長猪

朝顔や日かけあはれ花はき 宗富

朝顔よぬまりー露はきく 朝顔

朝顔を思ふはーたはらや小 幸和

長者も朝顔も思ふは家 一村

本様

位あつじけれ花や春乃上 三可
鳴きよと梅りまにむじけハ 体高
多きくして花もおしきむけハ 常久
咲むととりくじむじけハ 一村
花周ハむけ乃くあれ内裏ハ 日

女師花

男山へぬらおぢうとそ 女師花 徳元
女師むらりかて 男やまのあハ 二家
軽風乃あけはらゆるや 女師花 貞継
見て草らぬお侍あ〜 女師花 意親
僧服と並ハ能り 女師花 親重
男もよりてらまふるや 女師花 親重
女師むまのひらおらよ 女師花 一村

芍薬

あつ蒼やにさふ道心さうたふ兒 貞徳
うらやハ五月乃穂のぬこてハ 釈尊

桔梗

格

あそひや花すり衣桔梗は是 徳元
花よらいつらうゆしてきこやうき 宗朝
白露もきこやうに逃やぬのれむ 政公

蘭

我もあう人もかくらんあうりうふ 宗朝
あそひは花うきそあうき 長運
園乃あも音そやきらん花盛 心徳
凡そ露ちりし小紋うあらうは 政昌
秋凡そ花やらん菊の花軍 心徳
花凡そ勝をせうするあこらうは 氏宗
西露乃思れれ候りあえうは 貞徳

善哉乎さらんまきくやあし狐父 幸和
あらこちのまきくやあし狐父 幸和
花乃ひものまきくやあし狐父 幸和
似今一むじりけれ下乃あそく後一村

落

くしおのれまきくやあし狐父 幸和
ちい露のむじりけれ下乃あそく後一村

花軍一よりむすお野や 落 幸和
ぬる蝶や毛花り神のもん一 落 幸和
露のむじりけれ下乃あそく後一村
いふし乃る家た名うるや 落 幸和
あそく後めりんためくや 落 幸和
小車一よりむすお野や 落 幸和
ちり草をけれ下乃あそく後一村
あそく後をむじりけれ下乃あそく後一村

下川 十士

葛

花よりや〜あ〜う〜れ葛たん
あまき露らふん〜れ〜ひらき葛原 貞徳
くそらあめん〜みよ葛えん 幸親
雉凡や〜吹う〜く葛えん 友吉

秋田

くひよき〜田よ〜ら〜や〜貞 貞徳

押麻のわら田ハ是も捨地うふ 幸友
山田り信都ハわ〜ハ波あ小田
か〜あらハき〜れわら〜乃山田ハ 徳元
刈ま〜く〜田あ〜ら信都ハ 幸親
さ〜麻も皆知え出ら田つ〜ハ 氏吉
よ〜や〜く〜ら〜ら〜あ〜刈田ハ 貞
輝の田ハ八まんあ〜い〜前〜ハ 幸親
秋の田ハ風や吹〜く〜ら〜ら 幸親

下川 十士

ひえよりやおくる那多の虫は都 日
とく虫は青一對乃はうかうれ 日
きかれぬはうとくも一か虫は都 日
夕露子照うとくもてや虫乃都 利達
行秋よそり付虫乃都りうか 一正
喜せぬは地よとくもはくう響虫 貞造
ちりた虫のなやとくすの木の都 村房
とくも都りたはとくもやとくもはくう響虫 親を

駒はまきのきうよとくもはくう響虫 日
鈴虫乃やとくも響虫の羽落る日
とくもはくうの響虫はたはくもはくう 日
松虫はくうんととくもはくう響虫 日

廻文

のこはくんと虫は青乃とくもはくう響虫 日
鳴虫よのまよとくもはくう響虫 日
ひとくもはくうとくもはくう響虫 日

目と刀の間に蜂をすまよあげ 蚕 幸和
松虫や吹こび風乃うこあろ 日
ちくぢうも名子無て海をこぼす 日
まろくこいんあふさおのありに 常瑞
お虫はくうく口んやせんおこる 宗秀
おの露は心出とまればあふく 心室
ちげやちげなるこくなんしをまわぬ 宗祐
けさる乃口をともとあよ 樂正 一
お虫

鹿

ひことおりくつ枝の中ちる 鹿 貞徳
かろやとあふ山うさぎも 鹿 貞徳
くふりも 鹿の葉は鹿の影 日
ぢうまろくはねあふるくま 日
くあさるおまのたぐくの影は 日

麻也やもやと狸乃ちつてこ徳元
少くもやかいらふとひ麻也
月子おのりくんと乃十六夜
新枝より身をさす麻也綿皮曰
お多ふと志く心麻也狸皮
あふ時先ふあまきや麻の皮
麻乃音もさくくひけ自望曰
おせきもくし猫師ハ麻也つと山幸和
さきふのつ野あまき 名とる子 由也

麴

くさくさるけやひろ野かゝ麴 貞徳
一考ハあまり尾もさき麴か曰
浩然ても志くくひくひも麴 曰
野もあまり由懐くくさく麴 市次
長啼ハどのう尾よ似ぬ麴水 市次

ふくまきいふ柄もまじし驚ゆ野の親を
くさつひらねを尾よつげく鶴幸和
ゆあふうくよあけりし鶴水松吉
鶴衣くさつひらねすを野水政順
母ハ何らくさつひらねとなく鶴宗富

小雀

居るうらにけり六張乃小雀水 幸和

あふまきいふ柄もまじし驚ゆ野の親を
くさつひらねを尾よつげく鶴幸和
ゆあふうくよあけりし鶴水松吉
鶴衣くさつひらねすを野水政順
母ハ何らくさつひらねとなく鶴宗富

又

おれ梅わさり初らやん十く 徳元

綿本らぬく多き乃とまりの成安
多き目よるむくものふかき

乃

初よわらぬくもひ雲井一
棹よるりて遠くせんくひまはら
露と雲と雲むらりも般班日
又月よわらぬくもひくひ
音時

又ほらぬくもひくひまはら
夕音よ雲井一乃乃也あまふ
月乃あつ棹よるれ 天はる日
そふらぬくもひくひまはら
飛乃乃なるあやふのらりし日
音乃海むよまらわらるる天はる日
もあらんよるハ八百矢一筋日
乃ハ又字そくや又張乃らるる日

又乃こゝちりてあしら成るふ
わさるとしてあゆむるよ夫乃川
乃のれわさるさうしやむすむ
のり全の後は大後を料理うふ
しものこのかりまゝをぬる根か
乃のしやさ雲乃衣乃ち〜級
おきまけのさふも二季はひん
氏重

萬屋あ〜く

さ〜んを〜けさ〜あ〜料理か
うお〜子も猿さ〜よ解のる月
らくのん乃中に昔や〜番はる月
ひろ〜と田よらくのんは解ありか
掉よちりて趣をか〜う大解る
は〜ひは乃やあ〜んは虹乃
道筋う雲はけけ〜わさるる月
月弓てあ〜れ対落さるる月

るうのよよむいふの舞のてんり
富
月とたよ出合うらや天津る日
ふか新ハキマのなるのそね字ハ
惟貞
天守てのしん雲井れる字ハ
一村

鴨

り志子の大さく人乃青那
徳元
つりゆひのわいん鴨れんるんハ
休音

よまの志子よまきくあつとや海多ハ
志新
うく鴨乃羽ぬけハそりうき指ハ
幸和
まのゆかかこく志子の羽考ハ
曰
くやぬハ志子よまきく時の稱師ハ
忠海

洗帖

さひ紙の淵くよまこく石紙ハ
光音
流竹ハ雲やうまぬ乃まの帖
志新

徳

かゝるまゝも書ゆべきに思ふは
いづれもいふにやとらるるの麻衣 貞徳
いふまゝにこそいふはまじきあはれ日
くはらひていふはあはれく衣日
まげのまづらふにわらわぬ日
くはらひていふはあはれく衣日 幸和
らむ時のまゝあのみまゝに思ふは 幸和

おぼへていふはあはれく衣日

木下實

いづれもいふにやとらるるの麻衣

秀吉公入唐乃時

いづれもいふにやとらるるの麻衣
いづれもいふにやとらるるの麻衣
お乃名をいふはあはれく衣日

高きおのころへ梯ハ集りて
大空のくすまのくすまに梯
葉入るくすまの葉子おのころ
極一庭へ走らくすまに
山くすまのくすまのくすまに
おのころのくすまのくすまに

渡坂必あり

高きくすまのくすまのくすまに
貞徳

さくろのくすまのくすまに
山黒や空くすまの本練あたる梯 道職
高推ハ車一庭へくすまの葉子か

追善り

高きくすまのくすまのくすまに
九の母や連平くすまのくすまに
志のくすまのくすまのくすまに
ひくすまのくすまのくすまに

あはれなるはまゝもあはれなくともひ 吉久
あはれなるのひはあはれなくともひ 日
あはれなるよりあはれなるのまゝ袖ひの 幸和
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日

あはれなるのまゝもあはれなくともひ 吉久
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 幸和
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日
あはれなるのまゝもあはれなくともひ 日

本ありとやあ〜とんらりあ〜とん政倫
物教奇れこのこととらん東東うち 玉琢
し〜海とりのら〜の〜に〜く〜小き〜ハ 永重
おら推ハ居るひ君れやけりま 一村
又よ〜ふ出あひよ〜と〜り〜と〜戸〜ハ 日
お〜い〜と〜ま〜お〜く〜し〜す〜の〜た 日

芭蕉

う〜と〜し〜と〜た〜ら〜る〜た〜れ〜た〜か〜た 貞徳
月影とる影きりりす〜と〜く〜と〜ハ 親孝
し〜と〜め〜く〜ハ〜目〜そ〜芭蕉乃翁の女 日
う〜と〜し〜と〜し〜と〜や〜と〜ん〜た〜ま〜と〜お〜お〜あ〜あ 宗目

月

西国寺の月影れ内〜月影
月〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 十八日

其序あり

此処あり共庫あり月子輝の雲
月くくく共金乃のまやこらり題
月乃終らうつとと二枚尾風
月お熱らうひくくおよおひんま
有明の山くらくら乃まされく
雲くく月やのまそくく乃海
朝乃よの月もまめくまうり

村雲やちかおく月たまあくら
あんこく乃まやま月おあま
酒のまめ可くまそくそ乃月
煙風を吹くや月乃たうらく
雲ハ歌風ハお月た味方うか日
こらむさく入ぬ月や尻まら日
おけぬーや今乃まお秋乃月日
まめくくおくくたあまま月日

貞徳

ひららるのちびらり月打たれ日
山姥乃海入也月乃大く日
ひひひけて入日の休く二の月日
釣針て慈悲をさくや二の月日
長くハ縁もや移く月乃日
三の月乃うとてつやさうた方日
天竺とつよもや月乃老乃元日
雲ハ蛇のこむ月れ陸く那日

月乃罰あふるや雲に梅の風日
皆人のひら移のこもや秋れ月日
梵天れ西りり炊爨くそ乃月日
山乃端にお月れ為乃ちんと日
月れおも交うまけ連いまんき日
庭の砂も皆去るるの月日
そ乃海れくいけりも三の月日
三の月やお屋いぬく宵あとい日

月也息月吹出山乃祓日
行らるる雲月也月也月日
せんさうの影つるおとこ月日
露霜月也乃きされ日

十日

から月乃毛もさす月日

十一日

照月もさす月日

雲霧や草乃月乃さす日

今双さす月日

うさやうとお月もさす日

うさやうとお月もさす日

十一日

さうすうや雲乃月日

さうすうや雲乃月日

雲乃月日

三十一日

清も秋乃新きや胸よりり月夜日
油月いあんきんけりるひうりな可
村ちまうんじう月乃天磨小日

名月よ

名月をじてんよあへんあめ小日

十一日

月あふんてんてんひさわぬめ界日

十又月無よ

まんあふ月うきりらねあ合小 女

やんまーあうらうり月乃まああ日

月と目あうらうハ車とけら小日

十日目よ

とんあふりらあきんああああ日

名月よ

月もあよああてあああ日

中月ハ解なうーうあああ日 体音

西行月乃まろさや何休隨道日

名月よ

あゝ月乃伯父よあうう男うま日

くや文子よあふ八月たさうりか休甫

月懸り

りら月の上やあのみまきいあ合外日

二階をなああう

三男も二階もてうい月んか 三礼

早ひとらうさうり月乃ああてか 宗怒

月ハ是世界見ひうく鏡うあ 宗久

あゝ月ハ只二ら満乃ああてか 宗久

釣針や目よはらあああう月日

うもあああああう月乃よつと 留次

月早ハ夫乃やああああ金具ハ日

うああうさうり月乃まも湯ハあ

あゝ月天地和合たひうりハ 宗次

又月乃さきくもりーや古及古日
まのくこれ肺乃勝名や三日月日
月乃教見まりこー也まのく麓日
月形や人乃少くまのく出酒日
月早や雲れま神れまん亦日
石山少く
石山月也 光之源氏酒日
おまのく酒少く

月を級よまのくや綿れ浦乃浪日
日必出湯よ入く
茶湯て月まや見く玉の石日
旁乃海えこま出あや月乃舟日
雲子月からん形くつて日
山少くまのく入をすまのく乃月日
庚申一
月形をまのく海少りやま眼日

七 禁 十 八

雲や紙月に繪ま似てすは写日
鏡乃穴のまゝ八月乃嵐分日

名月よ

月くれ月八月もあは月日
繪師もやハハ霄乃月たはま日
旁乃海た底る月くけ日
菊月や一ひんひくくは日
山くをたせし月やき世月日

雲よ月をたはる月や帆子毎日
月新よのりり一雲ハ戸帳日
月新や兵乃川瀬乃あ車日
窓乃肉(新)入よ窓乃月日
月新乃くくくくは障子日

送歳少く

月くく女里や小倉た又窓日

十三夜

二子より粟めい月乃新り子日

十三夜

あふらふ二夜ひのりそ枝の月日

横雲八月さーおあうさーこい 正信

横雲八月さーおあうさーこい 親榮

幾ある月さーさーさーさーさー 吉次

大夜ぬけさそ月たぬさーさー 政直

柄乃さきうささささささささ 久家

山乃野火こぬむささささささ 正直

さう月からんーさう月ささささ 日

山乃ささささささささささ 日

雲水乃魚釣針ささささ 日

信濃國あさく

月も影をささささささささ 日

月はらささささささささ 日

ささささささささささささ 日

下ノ...

五く乃く又月乃ひくりく
良徳
西宮や蓋めの月たのむ
建業日
麴ちくく乃めくや天乃月た
教日
菊月乃ひかこりあやしく
免舟日

豊国めく

月代ハあみくう峯た
光小日
白川さくよふ
あ舟く定乃月
新
かひく男小
あお村より月乃
弓日

天衣乃くく
徳乃きやこく
れ月日
山乃くや
鏡巻とるく
夕月日
天よく
使船とる
れ月乃
あ日
唐まくも
月午一
れ月あ
小日
海月ハ
うほくおとこ
乃あ
舟小日
挽あ
ハくほく
たごこ
く月乃
あ日
月よ
ハくく
くわ
ああ
を月
日

月待よ

侍人ハお新加ノ月夜多日

名月よ

名月乃之月一親名芋町ら日

十三夜

くもりらちびの月夜十三夜日

一灯よ梅と一灯々魚乃月宗後

ら乃魚れまより海々乃月日

あや月早ん番より破道家 幸和

月早ハられ戸夜ら魚着う日

月去ろよとていづる夕日

又月をかりしとあふぬ日

あやらよ月たのあらハ雲井日

とく月乃くといふと神日

雲れ復をくくハ月たら日

むく雲ハ月乃あつた日

とていづる月たまら日

下ノ...

雲ハ幕一級ノカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
雲ハ幕一級ノカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
雲ハ幕一級ノカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
雲ハ幕一級ノカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日

名月ノ

日月蝕ノ

月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日

紀ノ

月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日
月ノ赤キカクニクハ月ト早日

名月ノ

月也くくまの灘や鏡う傍 改昌

十三夜よ

りら月よつらハ粟れ其のえか日

山眉よつれる月ハ月かひう家 氏等

追善よ

あへ行月や弘誓れわく一毎日

天乃原よ流海去こりら月数日

くりしあや月乃つて人れ天下 一長壽

池まらつて月や何乃應らくろ日

寺にらつて月ハ羅漢く十六夜日

とく乃衣文く見く空れ月 信

月入くさるる去く乃孤舟 心章

ゆりこあ乃弓弦月く雲れ中 日

雲水れそり橋るれや三く乃月 是吉

名月よ

天子名れさるるしるもあ月 守一

名月子

芋も子もさうめい乃月夜小西武

十三夜

今宵も月乃乃乃乃やまあやとこ氏吉

月乃影をあらはしく見せよ水鏡 知親

月子雲のらひささくくさき早 吉久

天うしとさう海りりくわ月夜登 宗泰

月乃影よとらあやまら早日

月鱈子

まよくすのい突りら月夜前か日

うも雲月子乃くさりや月夜日

稲妻乃おとこ月乃あつた本日

ら張れ月や入野れ考らる月日

ゆら雲はひささくもや月乃影 守成

桃灯乃ひぬはまゆ月夜多日

月のめいささくのら風りう家 正吉

移くかへハ草名月乃すいふ宗祐
又月をかくるを暮夜のいふか曰
月影をのぞくまらや車帆曰
月影乃出らハおほくかかんま三並
何れハ月小も雲やじふす曰
あんなうもえうとるまむを付曰
旗雲をころや月乃舟軍一宗留
月と日やさめ日あして遊ばじ曰

月影や眠く一とる山乃腰 常吉
天道そまあよあま月れ教 常久
ハ鶴乃浦あく

とく月の海まらや弓なり 照厚
天國乃小長刀やとく月曰
とれやの書弓あねやとく月曰
天乃系の月ハ雲ころとく月曰
繪やうや月乃舟よあすの雲曰

十三夜

夕ぞあけの月かゝる宵に

月乃影をうつし書はく

由安家の信や月は影法師

上と下と表とく乃月か

はくはくはく

初塩と舟と月とやこころ

移く見ても其名も月は

天乃戸乃継とやん

月かゝるひく雲く

月こよひ白糸天乃

武彦燈ハ大さく月は

膳をうてく宵乃月や

まんぬよおとくひや

なうあわら夫らり月

みみーびく宵乃月の

月影も見えぬまおちよりい早
山一は月乃走りや何は随處
うらさむらうのうらさむらう
先ひらき月いんぬめのかり
石月といふぬけり乃ひらき
ひとり海は流るゝよ月はく
水く見てもやまらん乃月の影
見ても流るゝ乃月はく

又月をさく又おちる乃雲
よむくやニぬ乃月れあれ今
日

十三歌

まあよかん月いそよけ十三歌
むひらん月いそよけ十三歌
日

菊

菊とちや昔句とてれ菊乃倒

九日

余可ましくもさそらつのも菊は

あまのちらよ白きいそよ菊草 いそ

羽露はらりやたぐりやと菊草 惟貞

花ははらりやささるの菊草 益光

醉人やあまの口をも菊は酒 西武

せんころよまきあさくやおきまき 氏吉

露や是わさしは菊は酒 吉長

並るよ徳白きりや菊の露 氏朝

若う代えし世も世返れ菊乃花 政昌

花入や実のりや乃おきぬ 長吉

昔我菊は十番切は菊もさけ 長吉

せ垣は菊は白き乃ささ 秋重

摘神の白ひ乃むの菊は露 氏朝

得く乃足さぬやささ菊乃酒 氏朝

山のささく香や赤人菊はささ 氏朝

九日

蝶の移る菊ハあなひ乃梳る方曰
花よ移る初蝶や菊は酒の酔 正連
朝露乃自ひひ帯乃よせいハ 正連
山口や露のこよせいきくは酒 重頼
當我菊乃そらぬや又帯一帯乃曰
露よそらひ月影も又もろも乃 奉和
菊月乃何方よ董志する新りる方曰
やそあも菊よ又音や深小袖曰

くむ交よそそそる名もや菊は水 宗祐
橋乃こせ又こ菊乃花の宿曰
くまこよあそそも地る小菊ハ 吉久
もくも移る乃衣れおきま乃 宗盛
天人乃新向るるやし女草一曰
一文字にさすハカウ帯乃枝曰
他あよそハ月や白よまきくは宿 忠俊
大自れさそも見乃や菊は花 宗寿

葡萄乃むくもりつゝもせんきやうくひ師正
七争八争一争や葡萄れ十六争 宗富
ぬくまよます葡萄の白ひ小日
今銀乃いこく屋乃葡萄乃露 吉久
沉香のくもんも白ひの葡萄亦日
葡萄酒ハ花くこもそやすやうひ 頼子
竹あましくきよやめ建路高葡萄れ色 日
ふらんあやもよとりりや葡萄の屋 正之

耳あしくて鼻よ白ひやまゝは名 市将
ゆりくくくうのみ目貫れ葡萄れ也 宗明
もあしく葡萄れもこの名供作 一村

楓

深きくして目よくく文をわえて小
吹風よきはくくく 楓 藤
凡ゆるをよすや 蝶よれ村よきよ 良吉

かたそらふあはれみよかたしほ 徳元
行乃まも風乃そりれの楓うを 秋帝
風をよこあうもするハ楓多 日

伊勢みく

神乃よめうけさおうむ 帷子ハ 幸和
てららくすうしとく也 楓乃本 助重
通露乃らるや 帷子ハ 政公
帷子よもあはれみよあはれ 正連

系とりり蝶の巢からハ 楓乃本 松吉
鈴亦よけうて 帷子ハ 常瑞

又巻六

花乃いろはらりあるを 和歌ハ 報小
かけ子たいろはらりある寺乃 庭
花よすまのあよりさるはハ 貞徳
山寺ふいろはあうあまの道 吉可

らりめをわくハ根乃いろはハ親を

西園之末巻

此時ノいろももあよ門目ハ開成
おくとあよこころくわろいろはハ
らりめ建いふもあこまのいろはハ
らりめろハ百千乃いろはハ
垂露ハ心もせすていろはハ
いろはハ目かあやハ心らハ
あま

かげいろはらりめを我ハ
筆梯も先染あいろはハ
幸和

名来紅巻

漆多よ似せくわてのいろはハ
染うくもいろはてハ
いろはハ又花をやハ
我ハ酸をくくハ
貞徳

なふりゆかのかのくわい一掃五葉日
うき煙と表をもちあめ袖うま日
概さまるんうー一掃みらふ了
神嬪のぬいり朽葉の若うろく 永徳
粟のまらぬ葉ふせあふらとらおれ 氏亨
舟楫をそびる時多や歎ふ 長吉
何月必あうく
輝や雲梯乃りみられ錦郡 貞継

是や又秋ハ葉ふ及乃のくらうく 立礼
まぐきくやまの文うりお梯ぬ葉字留

五葉ふ

上戸下戸ありる座敷のや村紅葉
義照公さるるもへぬ葉ふ人し
此出乃時沙羅の中へ一葉
あふりゆかのか



おとに二巻おす入て新巻尾に新巻おす
時あまてかきすお巻おす巻おす巻おす
山形乃赤きくこれや下りみから市
立回娘あやまに海と下る巻おす貞徳
紅巻おすいらあ巻おすあ巻おすあ巻
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
酒や時あのおいりみからあ巻おす
山や古心綿おすては入日新日

あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす
あ巻おすあ巻おすあ巻おすあ巻おす

立田能入唐

しうかゝ錦

休音

文を忍くあゝさる魚女の村に系結を

山乃腰の枝珊瑚樹にいぬ系ふ日

共ぬ系も父のあくさのぬ系ふ日

朱や丹ハ繪よかくあは露雨ぬ日

との系乃父とハ定家にくは日

文よそむ紅系ふや露よぬ道ん一正

ねハもありぬ系ふくくぬ夕日ハ宗後

露の枝をれぬ系ふや二市深政昌

常盤亦う後く紅系ふ屏風乃繪正信

皆くひんらあよらや下ぬ系ふ市次

あゝあゝ

ぬ系ふハ鼓乃勝の志くへる利房

和別あゝ

又付はあくりらくや白山正也

又くよあや時ぬ乃深雨屋宗象

鷄乃とさるやみきふし河田山幸和
いしくかよひさうさうそめよ村時多日
源氏酒も酔ても又いみきふし賀日
或宮おあし

玉垣の又よにぬり乃みきふし日
著くくろふみきふし山はさうり物宗壽
志るれいあぐれます志や又あは日
將一帝ハ時あ乃深ぬりみらか定門

又よらるあのみきや紋乃昔衣ふま
白露も朱よまーいれいみきふし一村
霧ハ繪の具乃乃又く野山小日

紅葉小餅

川音乃町あやそむりみら餅 貞徳
山海村あおるれやまみら餅 日
汁よはたさのりあさくけいみきふし 長吉

町ありや海ありあはのゝみきふ鮎 名次
ぬは渡らふいりこりみから少分 吉久
鮎とらふ紅きふ乃枝ふふのひか 親重

葦

らくとくあなみふりて 葦葦 貞徳
松葦や海へけとちの音は仲 親重
葦よりくぬふよりけはぬよりふ 日

魚よ葦やうまみきふて 露葉 日
山守をたぬたのこころはあはら葦 政公
魚よ葦れ上たそびふ時ぬる 宗盛
猫あり乃膳ありくくや 葦葦 重頼
是物とらふ酒志のけは者か 重政
おんさふも名ハ初葦一の者ハ 一村

九月盡

扇のよあけあはれなれん秋のれ 貞徳
よよあけ乃さるもの丁あり秋れ風 親重
紅葉さやられは秋れ道にやけ 重頼

雑秋

急を詠借りし

すあはまにんれん秋乃川にま

猫追門と云ふあはれ

三山境乃く猫せもや秋乃海
大石よあはれんあはれん雲をれ
はくやれ秋ハ冬乃くすあはれ

申一詩よ

さう乃尾もあはれんあはれんあはれん 時仲
草花子とあはれんあはれんあはれん 露波 以重
風さるくあはれんあはれんあはれん 宗重
草乃子とあはれんあはれんあはれん 宗重

ふらふらはふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら

奥の末合の時

龜井のり鶴乃さうくぬい川
さうくぬい川乃さうくぬい川
さうくぬい川乃さうくぬい川
さうくぬい川乃さうくぬい川

棚子ぞくはるま蒲葡萄酒乃とらわ水日
月より正にむらあきい何の結うか言れ
山城と山井よら名あやむ川田原親重
羊なまきの紐とやいん様乃風日
若乃梅ハ風やま毎まじり綿日
少すまゝさ蒲葡萄や珠敷乃を棚日
かゝ棚ハ早う福多ふれ雲乃中 日
去く乃樂う様とく風乃音日

羊花子の何やもあしむきあふ言 事考
孰波はよ見ゆや若乃かかけ舟 政述
又月乃海白ハとく町一く水 利房
もろ菊やん家じしはとむらり交 休音
又之ぬ水松乃木ハ身女ハ 重頼

丙部 少く

為事あはく丸重そあつ町と日
若乃穂ハ人を扱おれと綿ハ 繁榮

まゝの心いかにせんや草のら改進
鶴のよきこころも雲のし
まは乃家よんこや蒲萄はる
うすもくへりすは橋たき舟は
舟ちくして里穴かこつ橋まは
わくは腰をぬきしるす日
那陣くつ流るるすりたぬる
富士原乃煙もあしむ香炉の長運

ありうらもりぬきをぬらまのたふ袋のこ
名いかにいふもきふもぬきしるす日
あのを海とくつうしあはあも
後くわやあはさむあも何呂あ
ぬうこぬ乃まを吹まはるはれ

蘇州府志

卷之五

十一



